

決算報告書

平成16年度（第1期）

自 平成16年 4月 1日
至 平成17年 3月 31日

国立大学法人大阪大学

平成16年度 決算報告書

国立大学法人 大阪大学

(単位：百万円)

区 分	予算額	決算額	差 額 (決算－予算)	備 考
収 入				
運営費交付金	52,920	52,920	—	
施設整備費補助金	1,551	1,366	△ 185	(注 1)
船舶建造費補助金	—	—	—	
施設整備資金貸付金償還時補助金	50	151	101	(注 2)
国立大学財務・経営センター 施設費交付金	1,491	1,491	—	
自己収入	33,977	33,841	△ 136	
授業料及び入学金及び検定 料収入	11,481	10,371	△ 1,110	(注 3)
附属病院収入	22,189	22,455	266	(注 4)
財産処分収入	—	—	—	
雑収入	307	1,015	708	(注 5)
産学連携等研究収入及び寄附 金収入等	11,888	24,608	12,720	(注 6)
長期借入金収入	488	486	△ 2	(注 7)
計	102,365	114,864	12,498	
支 出				
業務費	80,068	78,951	△ 1,117	
教育研究経費	46,911	46,224	△ 686	(注 8)
診療経費	21,510	21,284	△ 227	(注 9)
一般管理費	11,647	11,443	△ 204	(注 10)
施設整備費	3,530	2,452	△ 1,078	(注 11)
船舶建造費	—	—	—	
産学連携等研究経費及び寄附 金事業費等	11,888	13,657	1,769	(注 12)
長期借入金償還金	6,879	6,980	100	(注 13)
計	102,365	102,040	△ 326	
収入－支出	—	12,824	12,824	

○予算と決算の差異について

- (注1) 吹田 I 総合研究棟の計画変更により予算金額に比して185百万円少額となっています。
- (注2) 償還計画の変更があり、平成13年度借入金全額151百万円の償還時補助金が交付されたことにより、予算金額に比して101百万円多額となっています。
- (注3) 平成17年度授業料の前倒徴収を行わなかったため、授業料収入が1,088百万円(平成16年度分と同額の前納があったと仮定した場合の金額)減ったことが主たる要因となっています。
- (注4) 患者数の増及び診療単価の増等の理由で診療収入が増えたことにより、予算金額に比して266百万円多額となっています。
- (注5) 弁償及び違約金収入328百万円、学内利用負担金収入91百万円等が、予算金額に比して決算金額が多額になった主な理由となっています。
- (注6) 承継寄附金が8,137百万円あったこと、外部資金の獲得及び著作権・特許権収入が4,583百万円増えたことによるものであります。
- (注7) 施設費貸付事業借入金(病院特別医療機械整備費)の減により、予算金額に比して2百万円少額となっています。
- (注8) 授業料免除による支出が578百万円ありますが、人件費の予算配分修正に伴う支出の減少が4,086百万円あり、予算金額に比して決算金額が686百万円少額となっています。
- (注9) 予算配分修正に伴う支出の増加もありますが、経費の節減及び人件費の減少により、予算金額に比して決算金額が227百万円少額となっています。
- (注10) 予算配分修正に伴う支出の増加もありますが、経費の節減及び人件費の減少により、予算金額に比して決算金額が204百万円少額となっています。
- (注11) 施設工事の17年度への繰越が主たる要因で、予算金額に比して決算金額が1,078百万円少額となっています。
- (注12) 注6に示した理由により、予算金額に比して決算金額が1,769百万円多額となっています。
- (注13) 借入金の繰り上げ償還が主たる要因で予算金額に比して決算金額が100百万円多額となっています。